

●取扱い上の注意！

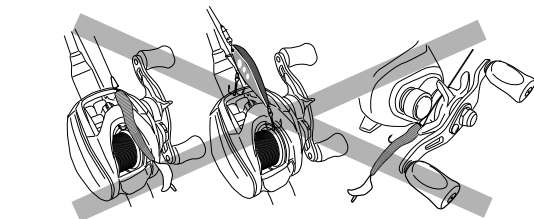
- ・PEライン専用設計スプールです。PE以外のラインは使用しないでください。ラインの伸縮によるスプール変形などのリスクがあります。
- ・500g以上の強いテンションでラインを巻かないでください。スプール変形の原因となります。
- ・細糸PEラインを使用する場合、トラブルが発生しやすくなります。フレームとスプールの間(隙間)にラインが噛み込む症状や、巻糸面での上糸と下糸のライン同士での食い込み症状などが発生しやすくなります。ラインの噛み込みや食い込みは必ず直してから次のキャスト動作へ移ってください。マグダイヤルを強めに設定するか、ラインを巻き過ぎないようにするなどあらかじめご注意ください。

- ・保管の際は必ず竿から取り外してください。
- ・リールを長時間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かす事をお勧め致します。

- ・スプールを取り外した状態でハンドルを回転させたり、クラッチを作動させたりしないでください。ギアが傷ついてしまいます。
- ・ラインガイドを手で無理に作動させないでください。破損の恐れがあります。



- ・ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはお止めください。リールを傷つけたり、ラインが傷ついたり、ワームの成分によってリールの塗装が侵されることがあります。

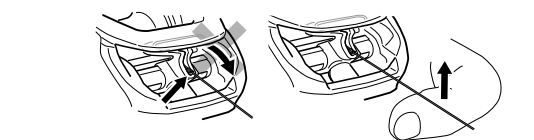


- ・海水の中に長時間放置をしないでください。
- ・釣り餌が付着した状態で長時間放置をしないでください。



- ※スプールに糸を巻く時、バックラッシュをひどく時は、必ずラインが狭い部分を通過するようにして行なってください。

- ・リーダー結節部がレベルwindを通過しにくい場合があります。結節部はロッドのガイドより外側に出すことをおすすめ致します。
- ・Tシェイプレベルwindの狭い部分にリーダー結節部が挟まった場合は、指で外してください。



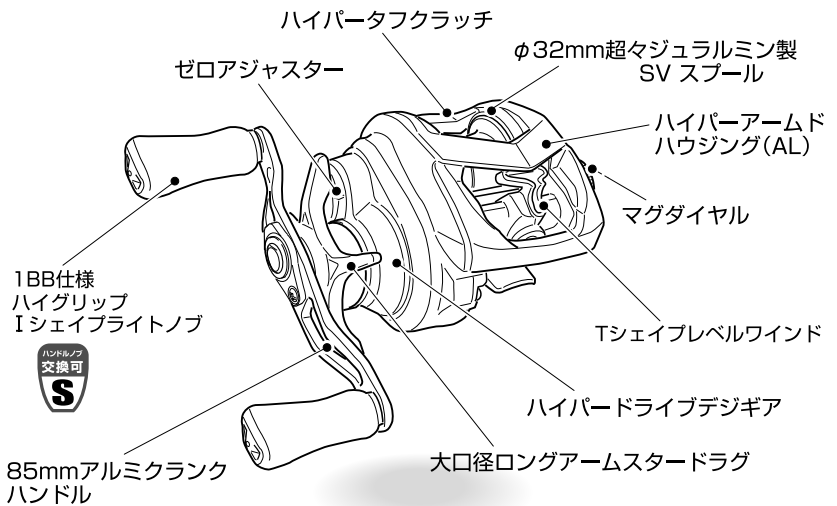
- ※そのままクラッチを切ると、破損の恐れがあります。

- ・スプールは、落下などのショックで変形してしまうと、スプールの性能が発揮されなくなります。お取扱いは十分ご注意ください。

- ・根掛かりした時に、スプールを指で押さえてラインを切る事は、おやめください。スプール変形の原因となります。必ず手でラインを持って根掛かりを外すようにしてください。

●各部の名称と操作方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

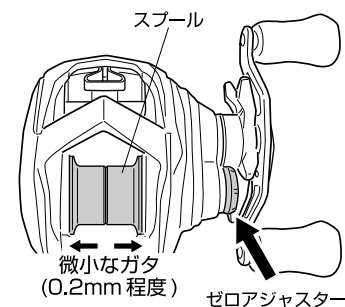
この度は SALTIST SV TW 80XH/80XHL PE SPECIAL ベイトキャストリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、PEラインの使用を前提に、ベイトキャストゲームを快適に楽しんでもらうことを目的に開発されました。ギアが強く滑らかな回転が持続する設計思想「HYPERDRIVE DESIGN」、TWS、PE専用スプールを採用しており、快適なルアーフィッシングを楽しんでいただけます。このリールを正しくご使用頂くために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただけますよう、お願い申し上げます。



●ブレーキ設定方法

- はじめに“ゼロアジャスター”を調整し、“スプールガタゼロ”設定を実施してください。

- ・“ゼロアジャスター”は、釣りを開始する前に“ゼロ設定”に調整することで、釣りの間に誤作動が起こることなく、快適に釣りを楽しんで頂くための機構です。
- ・“スプールガタゼロ”設定とは、同ツマミでスプールの押さないギリギリの設定のことで、微小なガタつき(0.2mm程度)を残した状態のことです。本リールは、出荷段階でスプールポジションを“ゼロ”設定にセットして出荷させていただいております。※クラッチを切った状態でスプールの挟み上下に2つの指でしっかり掴むと、ガタつきの状態が把握しやすくなります。
- ・“ゼロアジャスター”は、時計回りで締め、反時計回りで緩みます。



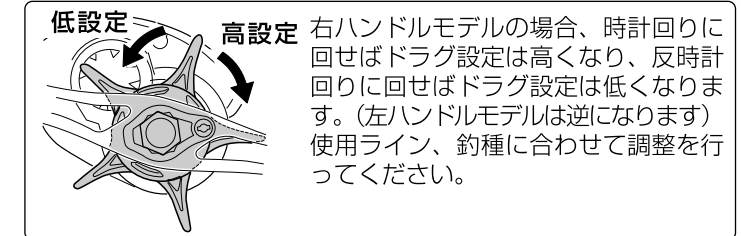
- マグネットブレーキの進化により全てのルアーをマグダイヤルのみで制御することが可能です。

- ・“スプールガタゼロ”の設定で、マグダイヤルの目盛りに委ねてください。
- ・数値が大きいとブレーキ力は大きくなり、数値を下げるとブレーキ力も小さくなります。
- ・慣れるまでは
 - ①マグダイヤルの目盛りを最大にしてお使いください。
 - ②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げて行きます。バックラッシュ気味になる一歩手前の目盛りが、その時の条件に合った最適なセッティングです。
 - ③半分以下(目盛り10)の数値のゾーンまで下げていく場合は、必ずひと目盛りずつ下げます。※マグダイヤルの数値が小さいと、ブレーキ力はかなり微小です。いきなり下げすぎるとバックラッシュが発生しますので充分ご注意ください。
- ※もちろん、サミングを併用することで更にブレーキを落とす(より小さい目盛りで使う)ことが可能です。
- ※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じた時に、ゼロアジャスターを少し締めてお使いいただくと、補助ブレーキの役割を果たします。

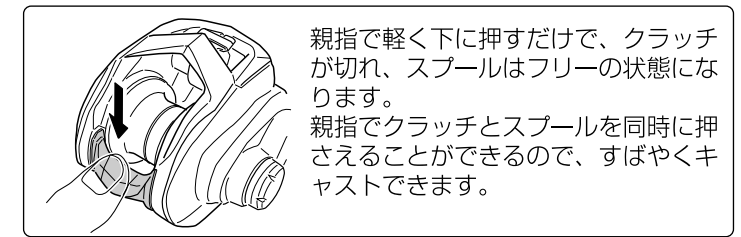
注意

- ・ゼロアジャスターを“ゼロ”より締めて使うと、本製品が有している“高レスポンスなスプールの性能”を損ね、飛距離ダウンが発生します。また、更に締め込みすぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が発生するケースがあります。
- ・一方で“スプールガタゼロ”状態より大きく緩んだ状態で使用すると、キャスト時のスプールの振れが大きくなるために、リール本来のマグネットブレーキの性能が不安定になり、ノイズの発生のみならず、飛距離ダウンやバックラッシュ発生の原因となります。更に緩めすぎた状態では、スプールとフレームが干渉し、傷が発生させてしまいます。
- ・本リールの持つ性能をフルに発揮させるためにも“スプールガタゼロ”設定でご使用いただくことを強くお勧め致します。緩めすぎや締め過ぎはお勧めできません。

●ドラッグ調整方法 (※図は右ハンドルモデルです。)



●ハイパータフクラッチ



●スプールにPEラインを巻き始める時の結び方

- PEライン使用に際しては、糸がスプールから空転するのを防止するため、3回から5回程、糸をスプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。また、結び付けた後、強く引っ張っても糸がスプールから空転しないことを確認した後、糸巻きを開始してください。

●PEラインキャストのコツ

はじめに…本リールは、PEラインを、よりトラブルレスにキャストすることができるように開発されておりますが、**PEラインの特性上、全くトラブルがなくなる訳ではありません。**使いこなされるには、「慣れ」という部分が不可欠です。あらかじめご了承ください。

- ①最初からフルキャストをせずに、徐々に距離を伸ばして行くように心掛ける。
 - ・その日の釣り始めの状態では、スプールに巻かれたPEライン同士がくっついていたり、下のラインに上のラインが食い込んでいたりする場合があります。
 - ・その状態でいきなりフルキャストすると、ライン放出の妨げになり、最悪の場合はラインが高切れして、ルアーをロストすることもあります。
 - ・ラインが食い込んだり、くっついたりした状態をほくし、スプールによくラインが馴染んだ状態になったら、徐々にキャスト時の入力強くしていただく事をお勧めします。
- ②ロッドの弾力を利用して、“乗せる”キャストを心掛ける。
 - ・コンパクトなスイングでピュッと振り切るようなキャストはトラブルの元です。スイングの初速～中盤～終盤までのスピード差を極力少なくする意識でキャストしてください。
- ③ジャークや、シャクリ等で、ラインがフケ気味に巻かれる場合は、テンションを掛け直す。
 - ・糸フケが多く出ている状態で使い続けると、上のラインが下のラインに食い込みやすくなります。ラインが良い込むと、次のキャスト時のトラブルに繋がります。
- ④キャストの中で、ゼロアジャスターを緩めすぎない。
 - ・緩めすぎると、トラブルが増えます。緩め過ぎは逆効果です。
 - ※ゼロアジャスターの設定については、「ブレーキ設定方法」の欄を参照ください。
- ⑤リーダーとの結節部が、ロッドのガイドから外側に出るようにする。
 - ・リーダーが長いと、キャスト時に結節部がガイドに絡み、高切れの原因となります。
 - ・リーダーを長く取らざるを得ない場合は、ノット部を極力小さくすることをお勧め致します。

- Q. 向かい風の時には？
- A. マグダイヤル目盛を大きくして、余分なラインが出ない様にする事で、トラブルを減らすことができます。それでも、バックラッシュをしてしまう時に、はじめてゼロアジャスターを締めていきます。
- Q. ナイロンやフロロカーボンラインは使えないの？
- A. 本誌品はPEライン専用のブレーキ設定のため、PEライン以外を使用するとトラブルが発生する可能性があります。ご使用はおやめください。



HYPERDRIVE DESIGN

SALTIST SV TW 80XH/80XHL PE SPECIAL

取扱説明書

●安全上の注意



- ①糸をリードするレベルwindの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をする恐れがあります。
- ②糸が勢いよく出ているときは、糸に触れないでください。糸で指を切る恐れがあります。
- ③幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながる恐れがあります。
- ④超薄肉スプールのため、濡れた手でスプールエッジを触るときなどは、指を切らないようご注意ください。
- ⑤キャストの時にはクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をする恐れがあります。
- ⑥ハンドルとボディの間に指をはさまないように注意してください。指をはさまれて怪我をする恐れがあります。
- ⑦糸が勢いよく出ているときは、スプールの上に指を置かないようご注意ください。ヤケドや、指をはさんで怪我の原因になる恐れがあります。

●安全上・ご使用上の注意



- ①根掛かりしたときは、無理に竿をあおらず糸を手にとって切るようにしてください。竿をあおると、竿折れの原因になります。(その際は、手袋やタオルで手を保護してください。)
- ②リールのフッククランプ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をする恐れがあります。
- ③ドラッグを長時間連続使用すると、ドラッグ収納部が熱くなり、ヤケドをする恐れがあります。
- ④ドラッグ付きリールで遠投する際は、ドラッグが滑ると糸で指を傷つける恐れがあります。必ずドラッグをよく締め付けてから投げようとしてください。
- ⑤リールを長時間収納するときは、水分を完全に切り、なるべく通気性のよい場所に保管してください。
- ⑥ドラッグ付きリールは、釣行後にドラッグを緩めて保管してください。ドラッグをキック締めたまま保管すると、ドラッグワッシャーが濡れ、ドラッグ性能が低下することがあります。
- ⑦使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻糸量、巻糸状態に差異が生じることがあります。
- ⑧落下などの強いショックがかかると、破損する場合がありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ⑨本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
- ⑩リールの回転部にはグリスや油が付いてますので、服を汚さないようご注意ください。
- ⑪クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。(ラインがロックした状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。)
- ⑫ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはおやめください。リールを傷つけたり、塗装がはがれることがあります。
- ⑬ジンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、本機の表面が変質したり塗装がはがれたりすることがあるので、ご使用にならないでください。また、上記が手についたまま本機を扱うこともおやめください。
- ⑭弊社純正品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正品以外の部品が取り付けられたままでの修理の場合はお断りさせていただきます。あらかじめご了承ください。
- ⑮本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損する恐れがあります。
- ⑯製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●キャスト時の注意 (※図は右ハンドルモデルです。)

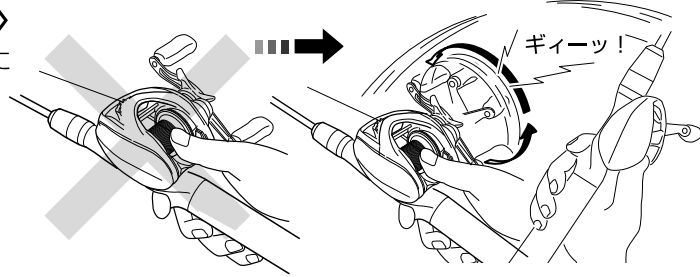
＜正しい握り方＞

ハンドルを上向き(もしくは下向き)にして握ります。



＜誤った握り方＞

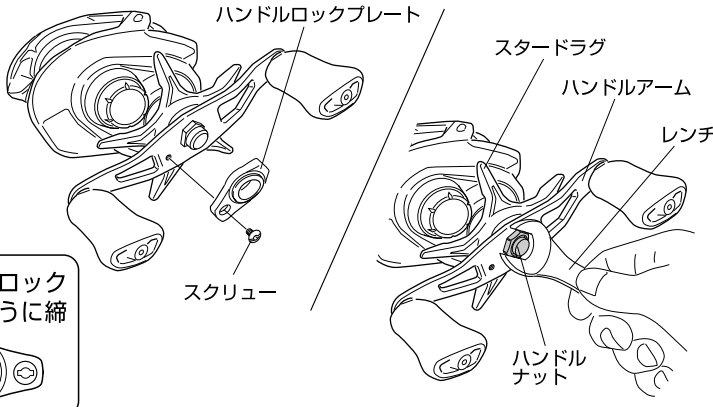
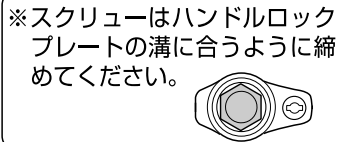
ハンドルを横向きにしてしまうと・・・



- ※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギアの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。
- ※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないと、ギアやボールベアリング等の破損につながる恐れがあります。
- ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い(大きい)ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

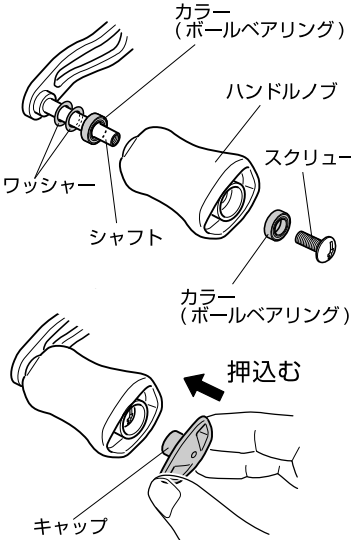
●ハンドル交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

- 市販のドライバー(※)でスクリューを緩め(反時計回り)、ハンドルロックプレートを外します。
- ドラッグを締め込み、市販のレンチ(※)を使い、反時計回りでハンドルナットを外します。
(※)ダイワRCSベイトキャストグリーン純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。
- ハンドルを外し、交換してください。
- レンチを使い、ハンドルナットを取付けます。強めに時計回りに締めてください。
- ハンドルロックプレートを取付け、ドライバーでスクリューを締めて(時計回り)ください。



●ハンドルノブ取付方法 ※Sサイズノブと互換性があります。

- 図のように、シャフトにワッシャー、カラー(ボールベアリング)を入れ、ノブを挿入し、残りのカラー(ボールベアリング)を入れます。スクリューを市販のプラスドライバーを使ってしっかりと締め込みます。2つ目のカラー(ボールベアリング)がノブに納まるよう、しっかり入れてください。
- 図のように、キャップを押し込んでください。



(キャップを外すときは)

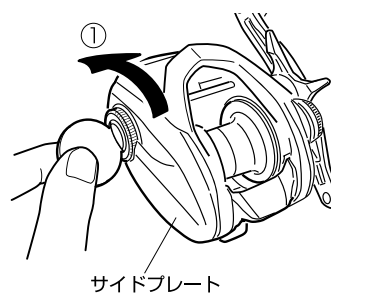
『I型ノブ』の場合
ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに同梱の工具を使用しキャップの穴に引っかけて外します。

※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。(追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。)

●スプールの交換方法

(※図は右ハンドルモデルです。)

- サイドプレート上のマグダイヤルの中心にあるブレーキダイヤルスクリューを反時計回りに回し、ゆるめます。
(ブレーキダイヤルスクリューは脱落防止のため、完全にはぬけないようになっています。)



- 図のようにサイドプレートを下方向に回転させ外してください。
- 回す
- 外す

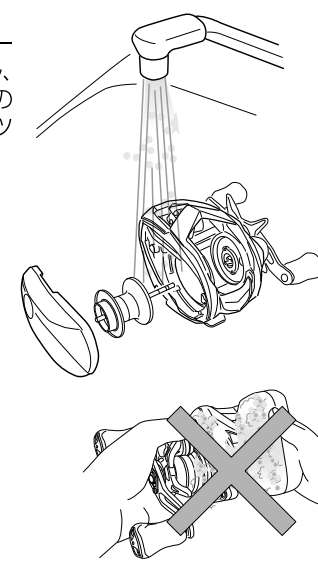


●重要！お手入れ方法

- 本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
- 錆や塩分の固着によるトラブルを防止する為にも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
- 本製品を未永くお使い頂くためにも、年に1度は(株)スポーツライフプラネットへオーバーホールに出すことをお勧めします。(有料)

＜順序＞

- ①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。
※特に海水域で使用したまま乾燥すると塩が結晶化してしまい、水洗いの効果が低下します。
・ドラッグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。
・サイドプレート、スプール、本体いずれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。
※温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けしているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対にお止めください。



- 推奨オイル：ダイワ純正リールガードオイル REV ボールベアリング用オイル
- 推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なう恐れがありますので、絶対におやめください。

- ・本体のウォームシャフトやレベルwind、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。
- ②洗浄後は、3パーツを組立て、よく水を切って乾燥させてください。
・よく水を切るために、ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的です。
※海水で使用された後は、スプール外部やフレーム内部などの水分をタオルなどでふき取ってください。乾いて塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
・ドラッグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。
※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。
※溶剤(シンナーなど)では手入れしないでください。
- ③以下の注油規定に則り、必ず注油してください。
- ④保管の際は、ドラッグを緩めてください。

■注油規定 (※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。)

【スプール部ボールベアリングへの注油(オイル)】

- 1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。
- 2 ゼロアジャスターを外し、内側に見えるボールベアリングに注油します。
※つけすぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なう恐れがあります。
例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合は、一瞬吹き付ける程度で結構です。

【ピニオンギア部ボールベアリングへの注油(オイル)】

- 1 スプールの取り外し、リール本体側のピニオンボールベアリングに注油します。この際クラッチをOFFにしておくとスムーズに行えます。(スプレーオイルの場合は、一瞬吹き付ける程度で結構です。)

【スプールシャフトへの注油(グリス)】

- 1 取り外したスプールのシャフト両端(→の箇所)に、グリスを付けます。イラストの様に、一度、ピニオンなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。

【ウォームシャフト部への注油(グリス)】

- 1 図の様にウォームシャフト部へ注油します。
※長時間で使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

【スプールシャフトへの注油(オイル)】

- 1 取り外したスプールのシャフトに(→の箇所)に注油します。
※グリス、オイル切れの状態が長時間使用すると、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼きつけをおこす事があります。少量を毎回注油される事をお勧め致します。

【ハンドルノブ、クラッチ、ラインガイド部への注油(グリス)】

- 1 図の様にハンドルノブへ注油します。
※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。
- 2 図の様にクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。
※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。
※落下などのショックを与える事で異音の発生や、スプールのフリー性能が変わることがあります。お取扱には充分にご注意ください。
※リールを長時間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かす事をお勧め致します。

※水抜き穴への注油は絶対におやめください。
※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。

Printed in Thailand

●アフターサービスについて
本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合はお買い求めの販売店、または右記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料)携帯電話からもご利用できます [受付時間] 9:00~17:00(土・日・祝祭日は除く)
TEL 0120-506-204
ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます
www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社
〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16

「パーツ情報 確認方法」
パーツ情報については【ダイワパーツ検索システム】よりご確認ください
QRコードまたは検索
ダイワパーツ検索システム 検索